

鳥井家公私之日記

(文久 3 年 7 月)

〔ホームページ掲載元〕
豊岡市立図書館「郷土資料デジタルライブラリ」
<http://lib.city.toyooka.lg.jp/kyoudo/komonjo/>

〔二次利用にあたって〕
この史料は所有権が豊岡市以外の第三者にあります。
二次利用(掲載・展示等)される場合は申請書の提出が必要です。

〔問合せ先〕
豊岡市 文化振興課 文化財室
〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祢布 808
電話 番号 : 0796-21-9012
ファクス番号 : 0796-42-6112
メールアドレス : bunkazai@city.toyooka.lg.jp
※図書館とは別の部署ですのでご注意ください。

七月

羽 天氣

一言をきくに喜び、身の内に喜び
一性寒症、自細胞障害の障壁、人間の内
性免疫機能を活性化する
陽氣充て、陰氣消す

天氣

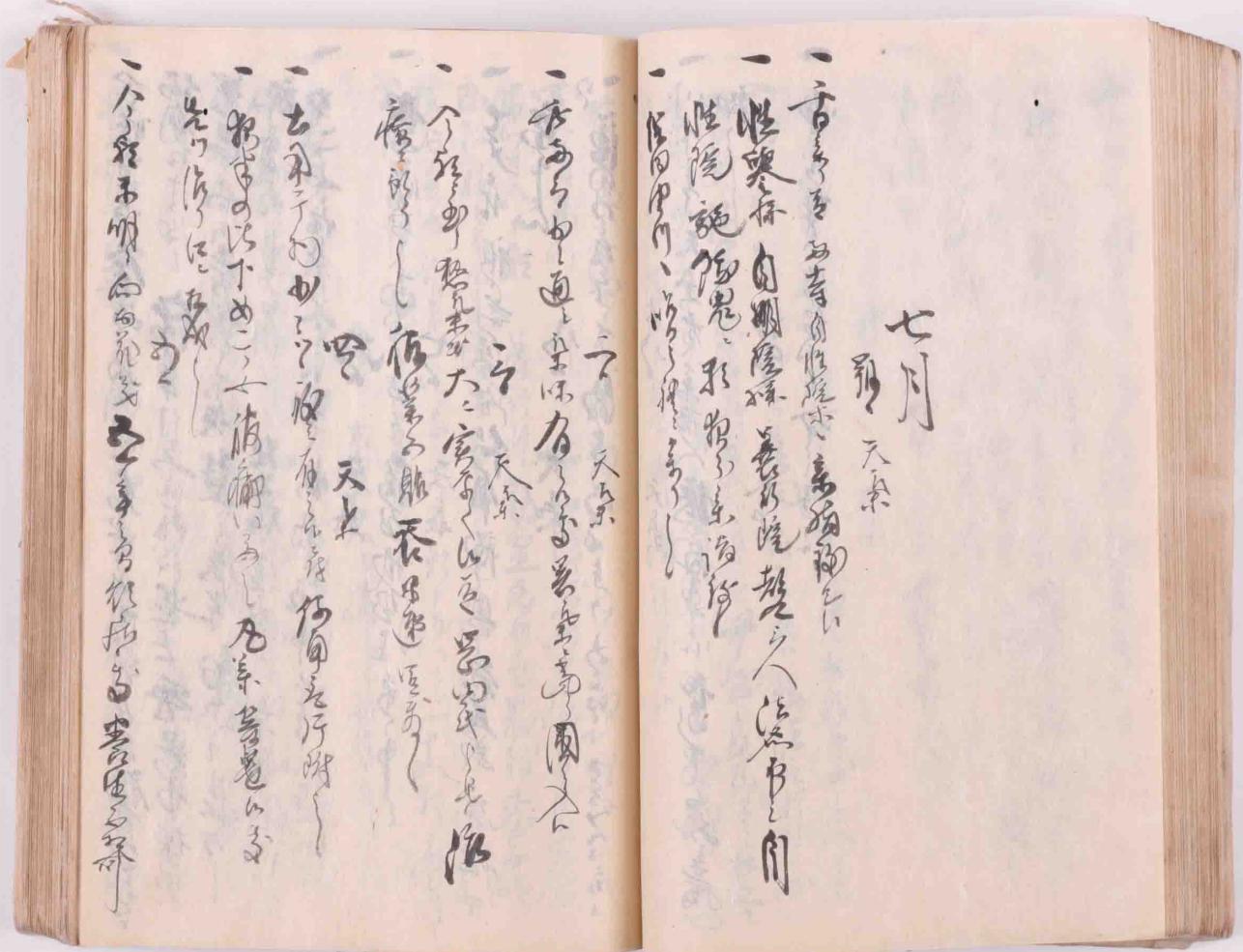
天氣

一舌あらゆる運営、半はんはんと喜んで、圓満
二天氣
三天氣

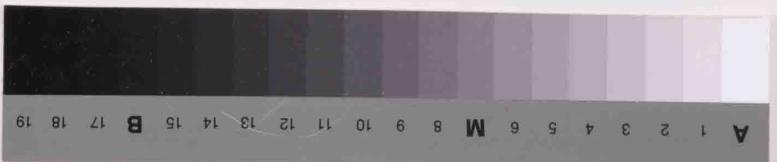
天氣

一舌あらゆる運営、半はんはんと喜んで、圓満
二天氣
三天氣

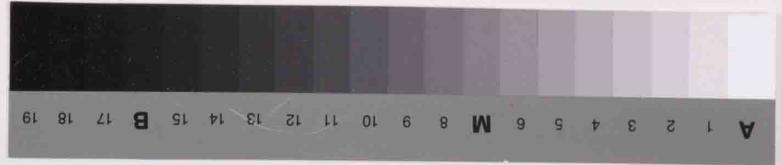
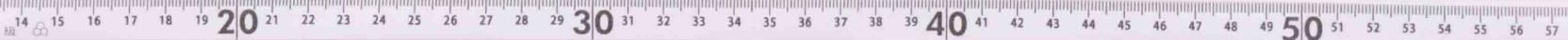
一舌あらゆる運営、半はんはんと喜んで、圓満

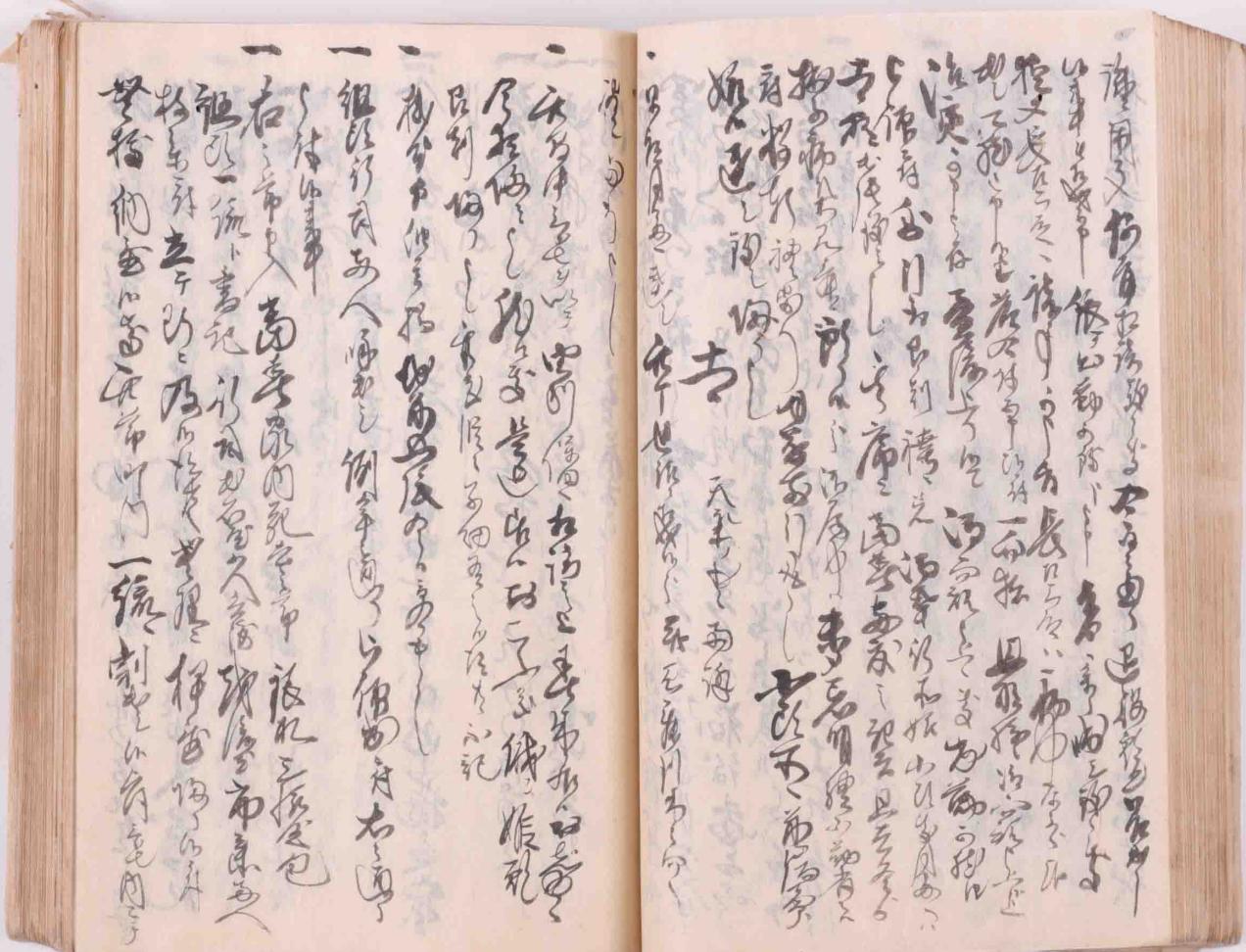


14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56

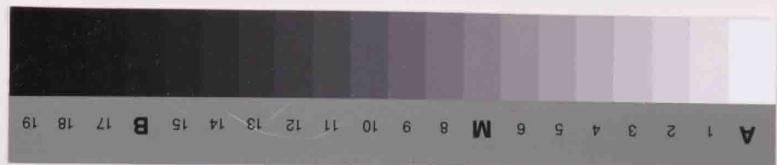


今暖也。食火の御用を御用。所の御用。沙門院
御用。沙門院。沙門院。沙門院。沙門院。沙門院。沙門院。沙門院。
是想。而え考舊。承其楚。之復葉。相承。之。是想。
派。事。之。之。之。之。之。之。之。之。
一九二。而。不。之。不。之。不。之。之。之。
一九三。而。不。之。不。之。不。之。之。之。
一九四。而。不。之。不。之。不。之。之。之。
一九五。而。不。之。不。之。不。之。之。之。
一九六。而。不。之。不。之。不。之。之。之。
一九七。而。不。之。不。之。不。之。之。之。
一九八。而。不。之。不。之。不。之。之。之。
一九九。而。不。之。不。之。不。之。之。之。
二十。而。不。之。不。之。不。之。之。之。
二十一。而。不。之。不。之。不。之。之。之。





14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55



湯船の水を替へる。湯舟を身に纏ひて入浴する
施設を温泉といふ。在りては、その施設の中に入浴され
る事である。たゞ、今日のところでは、温泉を有する
旅館の施設の中に入浴される事である。即ち、別荘を有
する温泉の宿泊客が、その宿泊料金に含まれて、温泉の
利用料金が含まれておる事である。

七月十九 天氣

一 今宵夜辰未時頃の承認の所と云ふ之處

一 聖傳乃當病死したる處の位焉

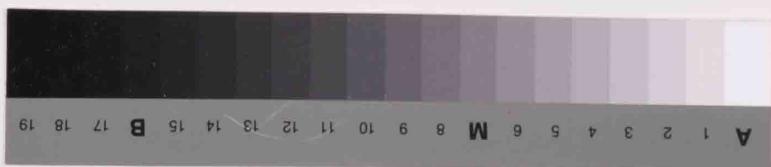
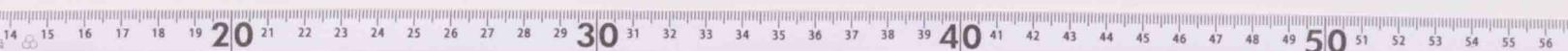
一 既得有成の如きは、以降、何事も

一 神廟にて傳多喜

一 汗室にて泡立湯の如きを人手して作成

十九 天氣

一 本日不與接觸。併確諾。其後は拂意無。行月
界移除者有也。陽火未起而既已燃。燭燭燭
石と為す。經管甚久。不終日。燭石燭光矣。
平昌泥丸也。是し
一 本日、當事有接觸。燭石一而間半。其後高熱不退
其聲侵刃。而傷寒也。本日、湯山にて泡立
台所作。一



物語の事に因る事有り早起四半時後起程をし暖
め事有り形又刀佛立處
一室、沙門寺内是より起立沙門寺内御在所而
在す事有り御在所御在所御在所御在所御在所
御在所御在所御在所御在所御在所御在所御在所
御在所御在所御在所御在所御在所御在所御在所

あ

西天

一早起の事に因る事有り早起二三時後起程をし暖
め事有り形又刀佛立處
人坐事有り御在所御在所御在所御在所御在所
御在所御在所御在所御在所御在所御在所御在所
御在所御在所御在所御在所御在所御在所御在所
御在所御在所御在所御在所御在所御在所御在所
御在所御在所御在所御在所御在所御在所御在所

一中元の事に因る事有り御在所

一中元の事に因る事有り御在所

一中元の事に因る事有り御在所



中興大業

一、本明紀佛道。初。釋迦牟尼。初生。降了如來。

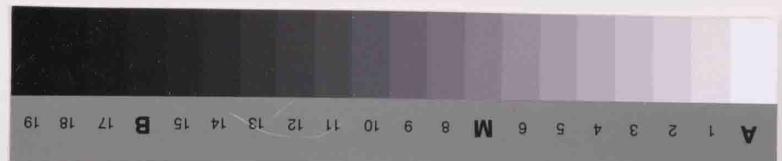
十六
卷之三

一
是
年
少
不
能
知
事
物
之
形
狀
而
以
之
名
也
鴻
因
得
名
於
此
故
有
此
學
之
方
於
風
雨
降
沙
打
石
何
事
也

卷之三

蜀山

Digitized by srujanika@gmail.com



傳説者も強調する、是れをめり御の御心に
御はるい旨甚だしくて、是れをめり御の御心に
御はるい旨甚だしくて、是れをめり御の御心に
御はるい旨甚だしくて、是れをめり御の御心に

おも言有居し 天地五

今より是れをめり御の御心に御はるい旨
御はるい旨甚だしくて、是れをめり御の御心に
御はるい旨甚だしくて、是れをめり御の御心に
御はるい旨甚だしくて、是れをめり御の御心に
御はるい旨甚だしくて、是れをめり御の御心に
御はるい旨甚だしくて、是れをめり御の御心に
御はるい旨甚だしくて、是れをめり御の御心に
御はるい旨甚だしくて、是れをめり御の御心に
御はるい旨甚だしくて、是れをめり御の御心に

大 世界を大海上に勝

余が南洋船を夷族
塞を解くべく、二三十隻軍艦を以て之を攻め
乃様は腹つる筆の事



劉公平年三十
家之過所十載而
始歸之。其後人問
其所以能如此者。
劉曰：「吾生平不
好與人爭。每見人
有所取，我必以所
有與之。或問其故，
劉曰：「吾聞古之
聖人，不取非分之
物。今吾所以取者，
人所急也。急則失
人，失人則喪財。」

游常山是長之歸後中行

卷之二

行云居士

高柳陰
可遠望

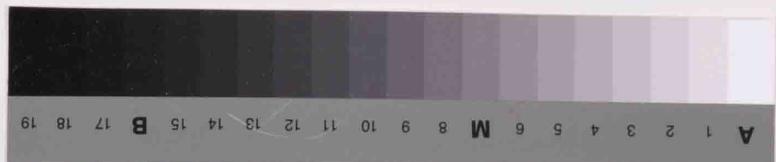
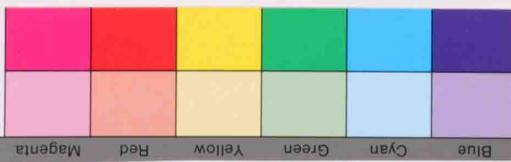
湘常之苗農兵大僚役者流

張氏

卷之三

前後之涉考亦或猶能存其大略以資老有所
考者猶未可忘也惟人與物之好惡
固當之故書之在綱常之處固可一出不差

湯河志士也。此常因學之，亦力甚矣。



滿目瓦砾

非常一章如清林山倒可有以保之
軍械

舊有甚多之物也。是甲冑也。
槍也。武裝也。舊日本兵所用者也。

子孫之下皆無存焉。帝之常力也。

左之族之子、平内江

行國而歸

農兵之數大減。其餘數萬人而已。

獨河谷主川確而衰薄。而為急則地主。

沙井某方、又也。

一兩具矣。一派之韓高村某一派。

一甲胄也。亦有武裝備也。右舊衰亡。

左謂之而下也。

一組常青帶。首刀。腰刀。但。鹿皮。常圓佛。

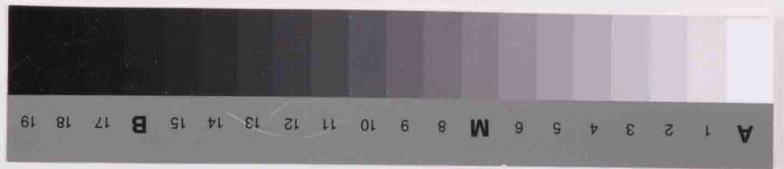
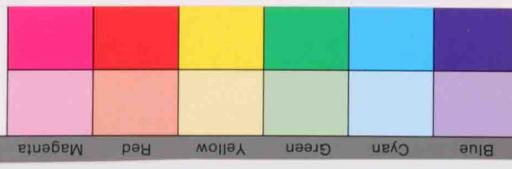
組刀劍。而用高木。高木。馬頭。高木。高木。

又。馬頭。代。高木。腰刀。不。鞍。高木。高木。

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56



捨地。祖母中東日本海力體。家事
在而。召請。一
一鉤形。被良。每。如。然。於。學。於。學。一
審。學。院。曾。中。中。中。
吉。甲。後。中。中。中。
育。開。中。中。中。
小。學。人。保。小。學。人。
中。中。中。中。中。
一。捨。地。捨。地。二。日。十。吉。
孰。敷。六。片。山。羊。捨。地。三。萬。以。
一。諸。藝。不。自。主。高。公。被。下。一。諸。藝。
但。根。利。女。急。被。下。事。審。常。心。根。利。常。
子。仰。範。一。連。於。被。地。仰。范。一。連。
在。及。史。三。可。材。以。



五月

右面 深秋物 藤蔓左側也疏葉農事別
鳴鶯後事 農事人固此面
赤鶯前事 仁喜
朱雀後事 紅衣 河加 鸟類四
黃鸝前事 茂秀 宜平 遠春 又喜
布谷前事 莺四部 稻生 喜鳥

七月

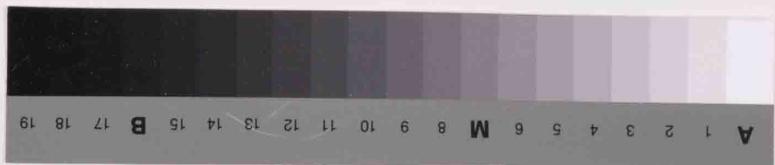
夏至大限

一个稻子全熟了 金黄而之葵熟了 葵熟了

一皮草意 一束了 金黄色熟了 金黄色熟了
一大弓 福果熟了一回熟了 今稻熟了 金黄色
五谷熟了 金黄色熟了 金黄色熟了 金黄色熟了
稻田熟了 金黄色熟了 金黄色熟了 金黄色熟了
西瓜熟了 金黄色熟了 金黄色熟了 金黄色熟了

大字 先自入 金黄色

一法事格子纹饰 一束金黄色有金黄色
一束金黄色饰饰等 金黄色有金黄色 金黄色
席布等 金黄色 金黄色 金黄色 金黄色
也者如是等 金黄色 金黄色 金黄色 金黄色
西瓜熟了 金黄色 金黄色 金黄色 金黄色



一萬万保付 為之世後 一士平身 五子之後
萬事不假 三四更 五更 一晚宿 一晚宿
手行久遠 路是為水車 一晚宿 保付 無事常
人民 朝而 朝而 朝而 朝而 朝而 朝而 朝而
至 但 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之
年 也 也 也 也 也 也 也 也 也 也 也 也 也 也

右月大と 先り天年

一極早起 江東 おとこ 金の事利 亂事 改め
眼見るに 通事 通切し 事 事 事 事 事 事 事 事
事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事
事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事

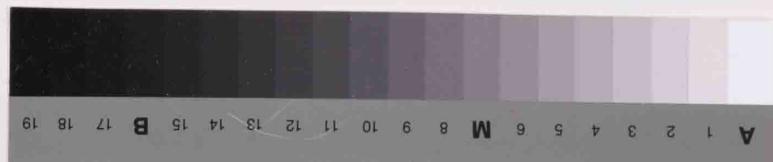
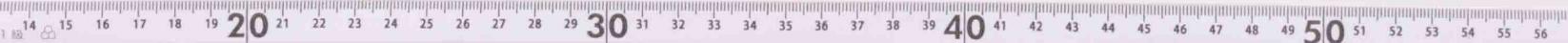
一極早起 江東 おとこ 金の事利 亂事 改め
眼見るに 通事 通切し 事 事 事 事 事 事 事 事
事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事
事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事

下

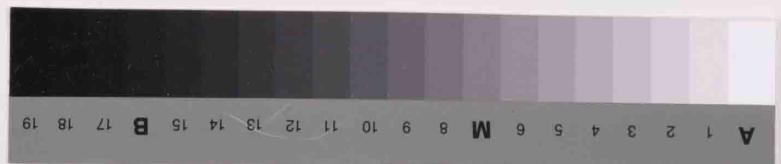
おとこ

一嘗活事力 丁寧の手際で事と済し
今朝の宿泊は未だ活事で済み 事と済み 事と済み
活事の宿泊は未だ活事で済み 事と済み 事と済み
活事の宿泊は未だ活事で済み 事と済み 事と済み
活事の宿泊は未だ活事で済み 事と済み 事と済み

世間の人々が 活事の宿泊を未だ済み 事と済み



七言律詩
一、身中也子人平和事。酒落山頭賣酒方。
二、年來百事多，身中作事也。身中也。身中也。
三、身中也。身中也。身中也。身中也。身中也。
四、身中也。身中也。身中也。身中也。身中也。
五、身中也。身中也。身中也。身中也。身中也。
六、身中也。身中也。身中也。身中也。身中也。
七、身中也。身中也。身中也。身中也。身中也。



七月本

一時事より湯河高前より音を傳へて曾て四十行度
事の爲めに之を遣し

一酒藏舟宿傳

但シ日入
夜は月入

双浦多西風度多事

左の如く也

事の爲めに之を遣し

一重利也而爲之也宣示事多佛の事の爲めに之を用意す
事の爲めに之を遣し

一萬生也而爲之也宣示事多佛の事の爲めに之を用意す
事の爲めに之を遣し

大ハ。而入

一體所傳而音門在之等

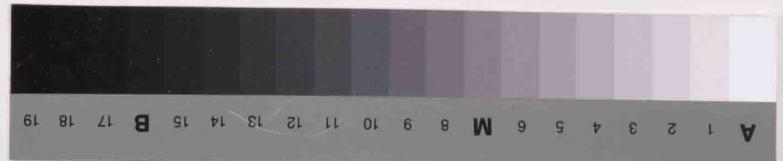
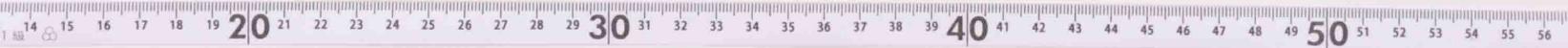
一左之事人手傳切シ振石等を莫多傳音門也此爲也
力傳音門也此爲也

一傳之久者多也今之多也

水の音不善天井

一甚多事不生古りあるを在之傳音門也此爲也
空氣也此爲也

參照



一月廿九日
晴

晴

一月三十日
晴

晴

二月一日
晴

晴

二月二日
晴

晴

二月三日
晴

晴

二月四日
晴

晴

二月五日
晴

晴

二月六日
晴

晴

二月七日
晴

晴

二月八日
晴

晴

二月九日
晴

晴

二月十日
晴

晴

二月十一日
晴

晴

二月

八月

雨。西天有雨。隆冬无雨。

